【社会】　＜中学校　第２学年＞

１　結果のポイント

○「地理的分野」について、統計資料からデータを正しく読み取る問題や、気候の特色や自然災害についての理解をみる問題では、正答率が８０％を上回っている。

●面積の数値を基に、日本の国土における「山地」と「低地」が占める割合を計算してグラフ化する問題では、正答率が５０％程度である。

●気温や降水量のグラフを基に、日本の気候の地域差について記述する問題や、複数の資料から読み取ったことを基に、日本で地震が多い理由について記述する問題の正答率は５０％を下回っている。

○「歴史的分野」について、開国後の日本の輸出入品の割合を示すグラフから、当時の日本の貿易の様子を読み取る問題では、正答率が９０％を上回っている。

●江戸時代の外国とのかかわりについて考える問題や、江戸時代の文化についての理解をみる問題、明治時代の選挙について複数の資料を関連付けて事実を読み取る問題や、日露戦争後の国民の様子について、複数の資料から読み取ったことを基に自分の考えを記述する問題では、正答率が５０％を下回っている。

２　結果の分析

（１）「知識・理解」の力をみる問題の例

＜問題＞　2の１（２）　　3の５

> 2　１(2)　下の文の ① ， ② にあてはまることばの組み合わせとして正しいものを，次のア～エの中から一つ選び，その符号を書きなさい。
>
> 一年じゅう気温が高く，降水量も多い南西諸島や小笠原諸島などを ① とよぶこともあります。また，寒い北海道は梅雨や季節風があまりはっきりせず，冷たい北風がふくことから， ② とよぶこともあります。
>
> ア　①亜熱帯　②亜寒帯　　イ　①寒帯　②乾燥帯　　ウ　①乾燥帯　②熱帯　　エ　①亜寒帯　②亜熱帯

> 3　５　たくやさんが，年表中に示した「元禄文化」「化政文化」にあてはまる作品を，次のア～エから一つずつ選び，その符号を書きなさい。(※作品は略)

＜結果＞　2の１（２）　正答率　９１．９％（正答…ア）

　　　　　3の５　　　　正答率　３２．０％（正答　元禄文化…イ「化政文化」…ウ）

＜分析＞

2の１（２）「南北に伸びる日本の北側と南側の気候の特色から、それぞれが属する気候帯についての理解」をみる問題の正答率は９０％を上回っている。他にも、2の３（２）「台風や梅雨、秋雨等の気候によって引き起こされる災害についての理解」をみる問題も、高い正答率を示している。これは、「世界と比べた日本の地域的特色」の学習において、主題図などを利用して、世界的視野から日本を一つの地域としてとらえたり、あるいは日本全体の視野から国内の大まかな地域差に着目したりして**我が国の国土の特色を理解させる指導が充実している成果**であると考えられる。

3の５「江戸時代の文化について、その特徴と主な作品」の問題は、第１学年の文化にかかわる問題に比べ、正答率が低い。これは、同じ江戸時代の２つの文化の代表作品を問うためであると考えられる。このことから**文化については、時期や担い手、中心地の変化、時代を代表する作品の題材などの特徴を関連付けて理解させる必要**がある。

（２）「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

＜問題＞　2の２（問題略）　4の４

> 4　４　年表中の資料１は，帝国議会（衆議院）の議員を選ぶための**選挙の様子**を示しています。あいさんは，選挙権について次の資料２，３をもとに調べました。その説明として最も適切なものを，次のア～エの中から一つ選び，その符号を書きなさい。　（※資料、選択肢は略）

＜結果＞　2の２　正答率　４８．８％（正答　略）

　　　　　4の４　正答率　４１．７％（正答…イ）

＜分析＞

2の２「面積の数値をもとに、日本の国土のうち『山地』と『低地』が占める割合を計算し、帯グラフに正しく表す力」をみる問題の正答率は、５０％を割っており高いとはいえないが、昨年度の類似問題の正答率２５．１％と比較すると、大きく伸びていることが分かる。今後も**統計資料を基にグラフや地図を作成する方法を身に付け、自ら資料を作成することを通して地域的特色をとらえる方法が身に付くようにする指導を充実させる必要**がある。

4の４は、「『総人口に占める選挙権を与えられた人の割合の変化を示す棒グラフ』と『選挙権を与えられた条件と当時のおおよその日本の人口を示す表』の２つの資料を関連付けて正確に読み取る力」をみる問題である。正答率は、４１．７％と低く、1の２や3の４のような単一資料の読み取りに比べ、複数の資料を関連付けて読み取る力には弱さがある。**一つの資料から読み取**

った社会的事象の空間的広がりや、時間的な経緯、原因や影響等を他の資料を使って追究する学習を積み重ねることで、社会的事象の特色や事象間の関連を見いだす力を培いたい。

（３）「思考・判断」の力をみる問題の例

＜問題＞　３の１　４の５

３ 1　年表中の［ ① ］～［ ③ ］にあてはまるできごとの組み合わせとして正しいものを，次のア～エから一つ選び，その符号を書きなさい。

A　オランダの商館を平戸から長崎に移す
B　アヘン戦争がおきる
C　このころから，ロシア人が蝦夷地に来て，日本に通商を求める

ア　①A　②B　③C　　イ　①C　②B　③A
ウ　①A　②C　③B　　エ　①C　②A　③B
（※年表は略）

４ 3　あいさんは，日本が日露戦争に勝利したにもかかわらず，日本国民が激しく政府を攻撃し，東京では年表中のd日比谷焼き打ち事件という暴動までおきたことに疑問をもちました。このような政府への批判が高まった理由を，次の資料４～６をすべて参考にしながら，説明しなさい。（※資料は略）

＜結果＞　３の１　正答率　４６．５％（正答…ウ）
　　　　　４の５　正答率　４８．５％（正答　略）

＜分析＞

３の１「外国とのかかわりについて、世界の歴史の背景の中で考える力」をみる問題の正答率は、４６．５％であった。正答のウ以外を選んだ状況は、アが約２０％、イが約２０％、エが約１０％となっている。アを選んだ約２０％の生徒は、「鎖国体制」確立の流れの中に、「オランダの商館を平戸から長崎に移したこと」が位置付いていると考えられ、正答と合算すれば約７０％の生徒が理解していると思われる。しかし、幕末において、「ロシア人が蝦夷地に来て、日本に通商を求めた」ことから「間宮林蔵」らが蝦夷地や樺太を探検したこと、「アヘン戦争」などの欧米列強の驚異を目の当たりにして、開国に踏みきったことなど、列強のアジアへの侵略が進む時代背景との関連において、日本の出来事がとらえられていないことが推測される。**世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などを各時代の特色としてとらえることができるよう、年表を活用して関連を考える学習を今後も充実**させていきたい。

４の５は、「『日比谷焼き討ち事件』など暴動がおきた理由を、多くの死者、増税などの国民の犠牲の大きさとポーツマス条約で得た日本の権益の少なさの対比から考え、説明する力」をみる問題である。正答率は、昨年度の類似問題の３５．８％から、１０％以上伸びている。

日露戦争は日清戦争と比べても死者が多く，多くの若者の命が犠牲になった。また，勝利しても賠償金が得られなかったため，日本にとって軍費は大きな出費となった。その出費は国民の増税によってまかなわれるため，国民の負担は減ることがなく政府に対する批判が高まった。

上記は正答例の一つである。３つの資料から事実をしっかりと読み取るとともに、「賠償金」が支払われない事実と、増税による国民の負担が緩和されないこととの因果関係を考えている。問題の意味もよくとらえられており、題意に合った適切な表現をしている。このように、課題に対して、**複数の資料を関連付けて考え、考えたことを整理して書く学習を今後も充実**させていきたい。

３　分析を踏まえた指導の改善

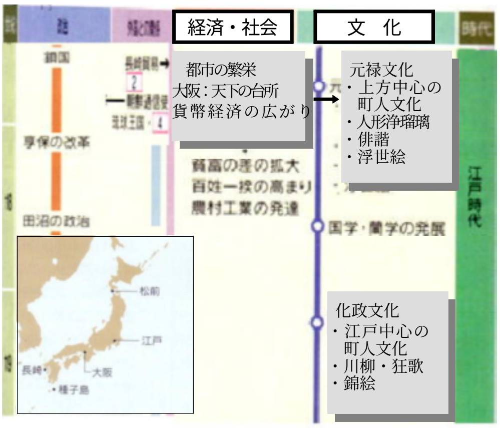
（１）指導計画の工夫改善　※本誌、中学校第1学年の「分析を踏まえた指導の改善」を参照

（２）指導方法の工夫改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫を！

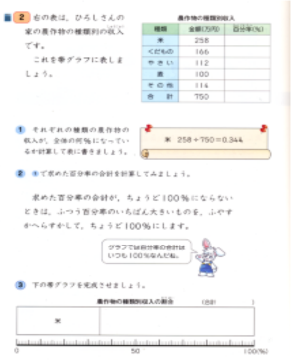
○文化については、時期や担い手、中心地の変化、時代を代表する作品の題材などの特徴を関連付けて理解させる指導を行う。
・時期や担い手については、政治の展開や経済社会などと関わらせて年表などにまとめさせたい。
・中心地の変化については、教科書や地図帳などで常に確認をさせたい。
・「右の絵は、歌川広重の浮世絵（錦絵）をオランダ人画家ゴッホが模写したものです。今から１００年以上も前に、日本の文化が海をわたってヨーロッパで花開いたのでした。」
このような、日本の文化に対する興味・関心をもたせることも知識定着には欠かせない。

（教科書〈歴史的分野〉見返し）



（教科書〈歴史的分野〉122頁）

「グラフを作成する」「略地図を描く」「年表に表す」指導の工夫を！



○地図やグラフ、年表などで表現することのよさを実感させる。
・収集した資料や調査した内容等を整理することで、比較や分類がしやすく特色が見いだせたり、課題が発見できたりする。また、調べた結果や考察したことを文章で表現したり、略地図やグラフ、表にして分かりやすく示したりすることで、相手に考えが伝わる喜びが味わえる。これらのよさを実感させることが大切である。
○「グラフ作成の仕方」「略地図の描き方」のつまづきやすい点を配慮して、指導を行う。
・「割合」を計算して「円グラフ」や「帯グラフ」に示す場合、割合を出す計算の仕方、全体を１００％とすること、四捨五入の仕方などでつまずくことが予想される。
（教科書〈算数５年下〉７２頁）→

【参考となる教科書（東京書籍）のコーナー】
〈地理的分野〉「グラフの作り方」６０頁　「統計地図のつくり方」６１頁　「イラストマップのまとめ方」６２頁　「パンフレットのつくり方」６３頁
〈歴史的分野〉「年表にまとめよう」２１８頁

複数の資料を関連付けて事実を読み取る力を身に付ける指導を！

○課題解決に向けた学習過程の習慣化を図る。
・課題に対する予想を立て、その検証のために必要な資料を収集、選択し、事実を読み取り整理し、課題に沿うように自分の考えを表現するという一連の学習過程が定着するよう指導する。
○課題を解決するための事実内容から役割を考え意図的な資料提示を行う。・・例①
・課題に対して直接結論を見いだせる事実が読み取れる資料、その結論を裏付ける間接的な事実を見いだせる資料などを意図的に提示する必要がある。
○資料を関連付けることを生徒に意識付ける指導を行う。　・・・・・・・・例②
・個人追究などで、着目をした資料の箇所にマーキングをしたり、読み取れたことをメモをしたり、あるいは資料と資料の関係を線で結んだりすることができるよう指導したい。
○事実と考えを明確にして話すことができるよう指導する。
・「結論（考え）」と「根拠（資料から読み取った事実）」を明確にして話す指導を継続的に行う。
・事実と事実の関連が分かり、課題とまとめまでの論理が分かりやすい板書に心がける。

朱印船貿易で利益をあげていたのに、朱印船貿易を停止し、幕府はなぜ鎖国政策をとったのだろう

（小学校で既習）

予想　キリスト教徒が増えると幕府に従わなくなる

予想　他の大名に力を付けさせない

◆絵踏（教科書９５頁）

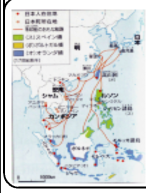
【事実】キリスト教徒を改宗させる

これだけ多くの人が外国と手を組んで反乱をおこしたら幕府を揺るがす

◆キリシタン人口の増加
（歴史資料年表　岐阜県版より）

【事実】キリシタン人口は西日本を中心に増加している。

◆朱印船の航路（教科書９４頁）



【事実】
東南アジアの国々は、ヨーッパに支配されている。

◆鎖国へのあゆみ年表（教科書９４頁）

【事実】他の地域の海外貿易を禁止する

西国の外様大名などが貿易によって力をもたないようにしたい

◆朱印状をもつ船主（角川日本史事典）

西国の大名・商人・外国人など１００名以上

【事実】西国は外様大名が多い

《課題に対するまとめ》
○幕府による外交の独占と大名統制のため
○幕府の封建支配を確立させるため

（３）学習環境の工夫、学習集団の育成等
※本誌、中学校第1学年の「分析を踏まえた指導の改善」を参照

※指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターＨＰ　教科指導等　学力向上ＰＪ授業改善（H16～H18）及び授業改善推進プラン（H19・H20）」を参照する。（http://www.gifu-net.ed.jp/gec/）

例①：平成16年度　学力向上ＰＪ授業改善　第２学年
　◎どの生徒にも確かな読み取りができる資料提示の工夫に取り組んだ実践
例②：平成19年度　授業改善推進プラン　第２学年
　◎資料の見方・活用の仕方を身に付ける個に応じた指導・援助に取り組んだ実践

※関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、Ｐ８７意識調査結果を参照する。

◎中学校第２学年社会の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。
第１位：自分で疑問が解決できたとき　　第２位：先生の説明を聞いて新しい事実が分かったとき